

第 28 回 JAWA 全日本アームレスリング選手権 大会総評

日本アームレスリング連盟
副会長 和佐 義文

平成 22 年 9 月 19 日（日）昨年度の墨田リバーサイドホールから場所を変えて、同じ墨田区に 4 月に新たに開館した、墨田区総合体育館にて、第 28 回全日本アームレスリング選手権大会が今年も盛大に開催されました。

今年は世界大会がラスベガスで 12 月初旬開催という事もあり、例年より早い時期での開催の影響か、参加者延べ 331 名と、昨年度と比べると約 100 エントリー少ない、一昨年とほぼ同数のエントリー数であったが、北海道から沖縄まで多数の強者が出揃った。

昨年度無差別級チャンピオンの金井兄弟や、100kg 級の左右チャンピオン岩永選手、右 90kg のチャンピオン坂本選手などの欠場で今年は盛り上がりには欠けるのでは？という心配の声も多少あったが、その穴を埋める新たなヒーロー達の登場で会場は大いに盛り上がった。

その中でも今回は若手の台頭が目覚ましく、女子右無差別級優勝者・萬谷沙也香選手（23 歳・奈良県）、男子右 65kg 優勝者・淀川誠也選手（出場者中最年少 21 歳・福岡県）、男子左無差別級 優勝者・中山裕一選手（23 歳・茨城県）、男子右 90kg 級 2 位・岩崎憲真選手（22 歳・福岡県）などの活躍で、来年以降も楽しみな選手が増えてきている。これらの選手は 2002 年から茨城県で毎年開催されている、全国高等学校選手権やジュニア選手権の上位入賞経験者も多く、全日本選手権へのステップアップ、底上げに繋がっており嬉しいかぎりである。

近い将来この若者達が世界の檜舞台で日の丸を掲げてくれる事を期待される。

ベテラン勢も負けてはならず、今回出場者中最年長の 69 歳・中原誠司選手（宮城県）や、60 歳・安田幹夫選手（北海道）も盛り上げてくれた。

また、ベテラン勢の期待の星、大城竜一選手（千葉県）も NHK の番組取材で注目の中、昨年に引き続き左 100kg 級 2 位と頑張ってくれた。

ベテランが頑張ってくれる事は、アームレスリングが何歳になっても楽しめる、生涯スポーツで有る証になると思うので、今後とも末永くアームレスリングを続けて、後進のご指導にもご尽力戴きたいと願います。

今回は遠方の北海道や沖縄県のエントリーが多かった事も目を引いた。100kg 超級の沖縄県の仲松克夫選手と北海道の白鳥孝友選手との左右の超ヘビー級 “南北対決” は、力勝負そのもので見ものであった。4 年ぶり出場の仲松選手は見事、右優勝・左 2 位と沖縄パワーを見せ付けてくれた。金井選手に続き、是非ラスベガスの世界大会でもこの無限パワーを見せつけて欲しいものだ。

また、激戦区の 80kg 級に久々登場の藤田耕司選手（徳島県）は、優勝候補の筆頭と注目されており、予選から圧倒的な強さを見せ勝ち上がったが、小寺弘選手を吊りきれず咬み合いにとなり、残念ながら 4 位となった。その藤田選手を一番警戒していたのが、優勝して見事 5 連覇を達成した高木秀樹選手で、練習で手を合わせた事もあったそうだが、高木選手は練習では一度も藤田選手に勝てずに、半ば 5 連覇を諦めかけていたと言う。

その藤田選手を破った小寺選手を、決勝戦で高木選手は一気に吊り倒した。アームレスリングとは、例えは適切かどうかは解らないが、ジャンケンに似た要素があると感じた。今回はアームレスリングの神様が、高木選手に微笑んだということであろうか？それとも高木選手の集中力が成せる技なのか。

女子部門に目を移せば、山田よう子選手が、またまた左右 2 階 級制覇で無敵を今年も見せ付けてくれた。しばらく勝てる相手は出てこないのだろうか？

また、前述したヘビー奈良県の萬谷沙也香選手のパワーは凄まじかった。このクラスは八島芳子選手の独壇場か？と思いきや八島選手の咬み 手より高い位置の、ヘッドを効かせたハンマー咬みで予選・決勝ともに八島選手を 一気に倒し、ヘビー級の新女王に輝いた。来年は八島選手も黙ってはいないであろう！

それから、車椅子での出場の青森県代表、高橋幸治選手と鳴海龍寛選手もハンディを全く感じさせない、すばらしい戦いぶりで会場を沸かせてくれた。

これらの選手達がラスベガスで沢山の日の丸をメインポールに掲げてくれる事を祈り、今大会の総評とさせて戴きます。皆さんの健闘を祈ります。